



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

(鉄電) 千葉 2935・2939 番

電話 (公) 043 (222) 7207 番

97.9.25 No. 4655



反戦共同行動委員会主催による、「新ガイドライン締結阻止・日米安保協粉砕」九・二三全国総決起集会が、東京・代々木公園において開催された。

当日は、降りしきる雨をものともせず、全国から二五六〇名の闘う人々が結集。怒りの大集会と防衛庁をとりまく大デモンストレーションを貫徹。戦後史を一変させる新ガイドラインの攻撃に、反撃の第一弾がたたきつけられた。

また、(1)日本の朝鮮侵略戦争への参戦国化許すな、(2)アジア人民との連帯をかけ、第三次安保・沖縄闘争の爆発を、(3)参戦国化の第二次橋本内閣打倒、(4)新たな安保闘争爆発へ、反戦共同行動委員会の飛躍をちとさうーを骨子とする基調報告を全体で確認。沖縄闘争に関する集会決議、組対法と闘う集会決議を採択した。

集会では、沖縄違憲共闘会議前議長の宜保幸男さん、反戦地主の知花盛康さん、三里塚、北富士、関西、反戦被爆者、組対法反対運動から、そして、動労千葉、国労闘争団、部落解放同盟全国連をはじめ、闘う各団体から連帯の挨拶、決意の表明が行われた。



さあ自らは
新安保を止めよう
日米安保協粉砕
全口集会を
名結集

百万人署名運動 始まる。

日米新安保ガイドライン・有事立法に反対する。

「国論を二分する闘い！」

この「百万人署名運動」を、全国の職場、学園、地域、街頭で展開し、六〇年、七〇年安保闘争を超える大運動をつくり上げ、新安保ガイドラインと有事立法に反対し、日本政府の侵略戦争を阻止する大運動をつくりあげましょう。すべてのみなさんの賛同を心から訴えます。

今、この危険な動きを止めるために立ち上がらなければ、日本の労働者・学生・市民は再びアジアの民衆に対して、許しがたい加害者となり、また自らも大きな被害を受けることとなります。国会や政党がいかに民意とかけ離れた存在になろうとも、日本の労働者民衆の戦争に反対する意識は、今なお脈々と生き続けていると私たちは確信します。なによりも沖縄の闘いと共に、アジア民衆の闘いと共に、日本の新たな侵略戦争の動きに対する激しい怒りの声と闘いが広がっています。今が歴史の分かれ目です。闘いはこれからです。

新ガイドラインは、まさに戦争の手引き(「WARマニュアル」)です。「日本の安全」と称して朝鮮半島をはじめ、さらに地域を特定せずに、中国、台湾から中東までの戦争をも想定しています。そのすべての場合において、日本が参戦しようとしているのです。これは日米新安保条約の締結に等しいものです。それは新安保ガイドラインを憲法の上に置くことで、「戦争放棄」をうたった憲法を真つ向から否定するものです。

新安保ガイドラインは、また沖縄に対して、侵略戦争の最前線基地として、巨大な海上ヘリポート基地建設のようにさらに大きな犠牲を集中しようとしています。沖縄への差別・抑圧は絶対に許せません。しかも日本全土を沖縄と同じく、米軍による自由使用の出撃基地、また兵站・補給基地にしていくものです。

そしてこのような戦争政策に対する民衆の反対をあらかじめ封じ込め、労働者を戦争の担い手として動員するために、政府は、有事立法の制定をねらうとともに、団体つぶしと盗聴の組織的犯罪対策立法や、労働基準法をはじめ医療、社会保障の改悪など、労働者、市民の生存権を奪い、労働基本権を解体しようとしています。この動きは憲法改悪への大きな踏み込みです。

平和を願い、アジア諸国民との信頼と友好を求める労働者・農民・市民・学生、すべてのみなさん。

この願いを踏みにじって、日米両国政府は、九月二十三日、「日米防衛協力指針(ガイドライン)」の見直し・最終報告」を強行策定します。その上で日本政府は、来年の通常国会に、新ガイドライン関連諸法案や有事立法を提出しようとしています。わたしたちは、日本がまたしても朝鮮や中国、アジアに対する新たな侵略戦争準備に踏み出したのではないかと強い危機感を持っています。

今の国会は主権者の意見が反映されにくい状況にあります。私たちは、日本政府のこうした新たな侵略戦争の準備をくい止めなければならないという気持ちから、ここに、「日米新安保ガイドラインと有事立法に反対する百万人署名運動」を呼びかけます。